



おやすみなさいのほん

マーガレット・ワイズ・ブラウン ぶん

ジャン・シャロー え

いしい ももこ やく

福音館書店 1962年 1050円

32ページ 25×21cm

太陽が沈み、夜になります。どこの家にも明かりがつかます。

何もかもが、それぞれ遊んだり働いたりすることをやめて、眠りにつかます。

動物も、乗り物も、花も、みんな。

そして、子どもたちは、ほかの動物たちの幸せと無事も神様にお祈りして、ふとんに入ります。

やさしい絵と、「ねむたい ことりたち」、「ねむたい さかなたち」、「ねむたい ひつじたち」という繰り返しに、ページを追う私たちも、ゆったりとした気持ちで包まれます。

読み終えたら、静かな気持ちで、おやすみなさい。



かあさんのいす

ベラ・B・ウィリアムズ 作・絵

佐野 洋子 訳

あかね書房 1984年 1427円

32ページ 21×26cm

「わたし」は、大きなびんにお金をためます。かあさんが働く食堂で仕事を手伝ってもらったお金、かあさんが仕事から帰ってきて渡してくれるお金、おばあちゃんが安売りで得たときにくれるお金。びんがいっぱいになったら、世界中でいちばん素敵ないすを買うのです。去年の火事で、ほかのものと焼けてしまったから、今はいすもないのです。

いよいよびんはいっぱいになり、夢にまで見たいいすを買うことができました。いすを買う前と、最後のページで、いすに座っているかあさんの表情を比べてみてください。温かさだけでなく、火事というショッキングな出来事を持ち越えた一家の力強さも、ひしひしと伝わってきます。